



約100年前、九州大学の橋本策博士が報告した橋本病は、日本人の名前が付けられている代表的な病気の一つです。

今日も診察場で、軽い糖尿病で治療中の75歳の女性が「先生、本当にしんどいです。健診で血液検査の結果が悪いといわれました」と訴えられました。早速に採血し過去のデータと比べると、肝機能、コレステロール、CPK(筋酵素)が異常に上昇していました。ご主人の看病で疲れ、無気力でむくんだ患者さんの表情。「体重は増えていませんか?寒さはこたえませんか?」と尋ねると、「この1年で5kg増えました。体も本当

むくみや無気力、甲状腺の病気疑って

に冷え辛いです」との答え。首の診察を行うと、硬く腫れた甲状腺を触れました。ホルモン検査の結果、値は異常に低下し、橋本病による甲状腺機能低下症と診断しました。

甲状腺は、のど仏の下に位置する、蝶のような形をした約20gほどのホルモンを作る臓器です。このホルモンが低下すると、体の新陳代謝や気力の低下、むくみ、皮膚の乾燥、高コレステロール血症などを認め、中年から高齢の女性に多く発症します。

橋本病のように徐々に進行する病気は、早期に発見する事は困難な場合があります。特に高齢者は、疾患に特徴的な症状を訴えて受診する事が少ないです。原因がわからない、むくみや無気力が気になる方は、ぜひ、かかりつけ医にご相談下さい。

(公立南丹病院院長 梶田芳弘)